



No. 4 / 38

有脇小学校校長だより

2020・6・18

自分の命は自分で守る

「自分の命は自分で守る」この言葉、わたしはよく使います。東日本大震災時、後に「釜石の奇跡」と言われた釜石市の99, 8パーセントの小中学生が避難することができた話を、以前勤務していた東海市で聴きました。「津波てんでんこ」という教えが浸透していたからです。「津波が来たら取るものも取りあえず、肉親にもかまわずに、各自てんでばらばらで高台に逃げろ」という意味です。それぞれが責任をもって自分の命を守れば、誰もが助かるというわけです。つまりは「自分の命は自分で守れ」ということです。

6月10日に地震避難訓練を行いました。この地方にも必ず巨大地震が起こると言われています。緊急地震速報の“あの音”が放送され机の下に避難した後、体育館（雨天のため）に避難しました。地震発生から避難完了まで5分5秒でした。「お（さない）・は（しらない）・し（やべらない）・も（どらない）」がしっかり守られた避難でした。

雨もまたいいものでねえ すべてがよみがえる

有脇小学校は海拔17メートルの場所に建っています。しかし、東日本大震災では40メートル級の津波が押し寄せています。さらに衣浦湾は奥に行くほど狭くなり津波が巨大化しやすい地形となります。有脇小学校ではさらに校舎の3階



へ避難することも考えなくてはなりません。いろいろな場合を想定して避難訓練を実施していきます。昨年にも実施しましたが、突然の地震避難訓練も計画しています。有脇小学校の全員で避難できるように訓練を続けていきます。

←シェイクアウト訓練の様子

今年も田植えからやらせていただきます



GPS機能付き高性能田植え機を操る稲生さん

6月12日、5年生が田植えを行いました。今年にはコロナウィルスの影響で粃まきを行うことができませんでした。学校応援団「稲作指導」のみなさんが苗を育てていただきましたので、それを植えました。子どもたちのほとんどが「田植

え」初体験で、「キャー」の声とともに田んぼに入りました(^_^)。田んぼに張られたロープの目盛りに従って植えていきました。初めは遅かったのですが、慣れてくるとどんどんスピードが上がってきました。田んぼの4分の1ほどを約1時間かけて植えました。その後は田植え機の登場です。あっという間に作業終了でした。米を作ることの大変さを体験し、人間の知恵のすばらしさ、進歩を感じることができた貴重な時間でした。この日は学校応援団「稲作指導」のみなさん14人、市役所経済課から2人、JAからも1人来ていただきました本当にありがとうございました。

有脇小学校のコロナウィルス・熱中症への対応

有脇小学校ではコロナウィルスと熱中

症に対して次のような取り組みをしています。一例を紹介します。

○3密の回避→机の位置、整列したときの間隔等 ○うがい手洗いの励行→蛇口を一つおきに使用、待つ位置の足形マーク※給食後の歯みがきは自由参加 ○マスクの着用→体育科の授業、給食ははずす、登下校時ははずしてもよい（集合場所までは着用→着用忘れ防止のため） ○手指消毒の実施→登校時、給食時にアルコール消毒を実施 ○給食中の消毒→子どもたちに清掃をってもらうために給食を食べている間に手洗い場とトイレをアルコール消毒 ○下校後の消毒→教室内、階段の手すり、トイレ、手洗い場等子どもたちがふれる箇所を消毒 ○エアコンの使用→特に大放課、体育科授業後等は特に配慮し、換気をしながらのエアコン使用 気温が高ければもちろん換気をしながら使用 ○ミスト散布→大放課終了後昇降口で散布 ○大型扇風機→体育館での授業時に2台稼働 ○給食用お茶の配布→給食で余ったお茶を保管し午後からの水分補給に使用 ○日傘・首かけ冷んやりタオル等の使用可 ○朝会のZOOM（オンラインシステム）での実施 ○特別教室利用時の前後の手洗い→共同利用した物品の消毒 ○各教科指導時の注意点確認等 ※消毒時等で人手が足りません。よろしくお願いします。